

(8) 整備の内容と期待される効果

<湿地環境の再生>

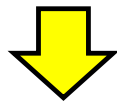
■浅場の形成

- ・切り立っている水際を緩傾斜化することで水生植物帯を形成し、魚類の隠れ場・産卵場となる浅場環境を形成します。

■深場の形成

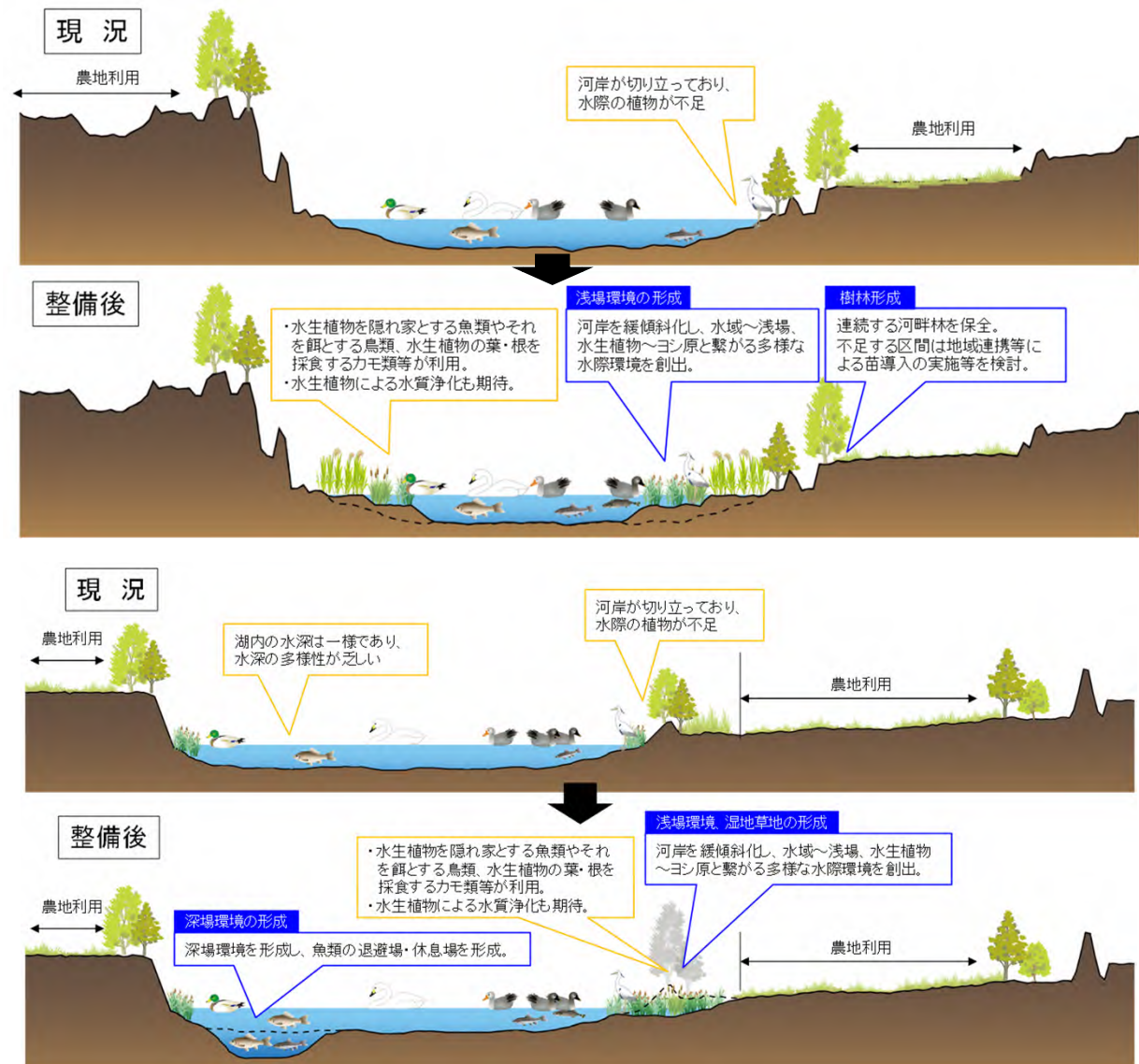
- ・一様に平坦な湖沼地形となっているため、多様な水深に整えることで、魚類の退避場・休息場となる深場環境を形成し、生物の多様な生息空間を形成します。

現況
10ha



整備後目標値
23ha

13ha増加！



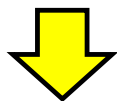
魚類等の生息環境の改善の整備イメージ

<樹林環境の再生>

■多様な樹種による樹林形成

- ・現状でヤナギ類が優占する範囲を切下げること、ヨシ等の湿潤環境を好む植物を主体とした草地環境を形成し、草原性鳥類の生息環境を形成します。
- ・連続する河岸の樹木は極力保全し、連続性が保たれていない区間は河畔林樹木の移植等により樹林の連続性を形成します。

現況
4ha



整備後目標値
16ha

12ha増加！

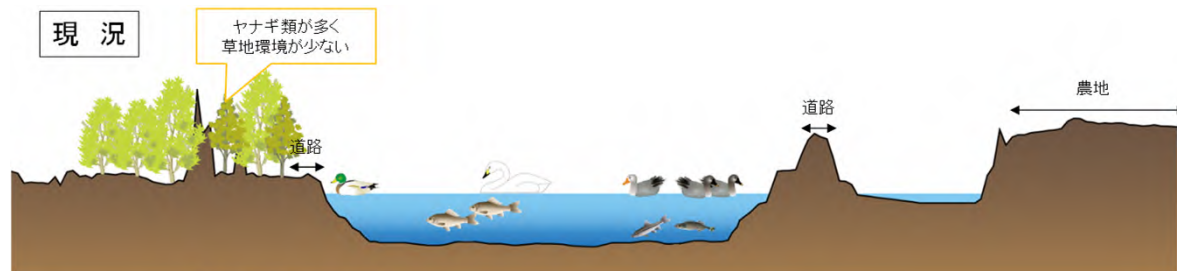
現況



整備後



現況



整備後



多様な樹種による樹林形成の整備イメージ

＜ネットワークの形成＞

- ・袋地沼は石狩川及び流入支川との間に落差が生じており、魚類の連続性の確保の施策として、石積みや土嚢、コンクリート構造物によって段差を解消する方法が考えられます。
- ・袋地沼においては、落差下への土嚢や蛇籠設置による簡易的な手法により、効果検証しながら整備を進めます。

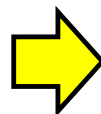


現地発生石を使用した魚道の設置

構造物を改修して魚道を設置

(段差解消イメージ画像の出典: 河川の連続性の確保(国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所))

現況
0か所



整備後目標値
1か所

＜管理用通路の整備＞

- ・袋地沼北側にある既存の道路を活用した管理用通路を整備することで、維持管理の利便性を図ります。
- ・管理用通路の整備は、現状の釣りや渡り鳥の観察等の利活用における利便性の向上が期待されます。
- ・また、事業により形成された自然豊かな湖沼景観を楽しむ散策路として利用を通じ、インフラツーリズムなど地域活性化などへの波及効果が期待されます。

2.3 地域の協力体制

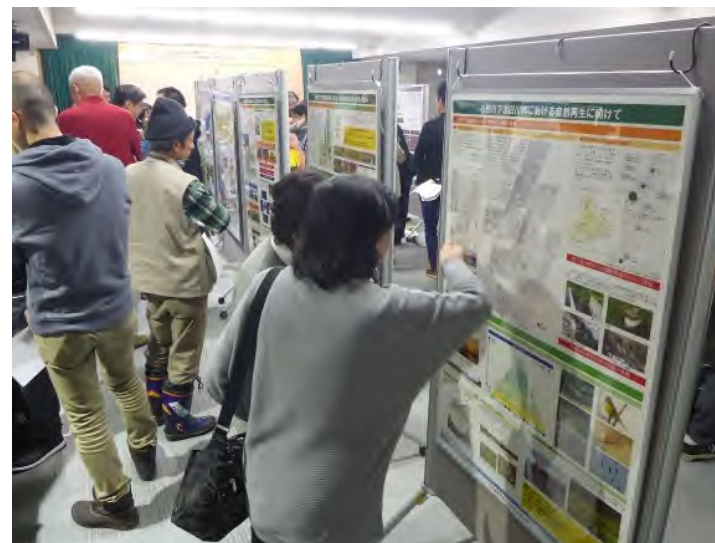
自然再生の計画・実施にあたっては、地域の自治体、NPO団体、関係機関、学識者などと連携を図りながら、幅広い地域合意のもと取り組みを推進します。

令和6年11月には、「石狩川下流袋地沼自然再生実施計画書」の作成、及び同計画の実施、フォローアップ等を行うことを目的として、石狩川下流袋地沼自然再生ワークショップが設置されました。住民代表、関係行政機関、河川管理者などが参加し、様々な視点による意見交換を行っています。

さらに、自然再生の取り組みを通じて地域間の交流を活発化することで地域ネットワークを形成し、継続的な取り組みを担う人材育成、地域づくりに貢献します。



袋地沼自然再生ワークショップ



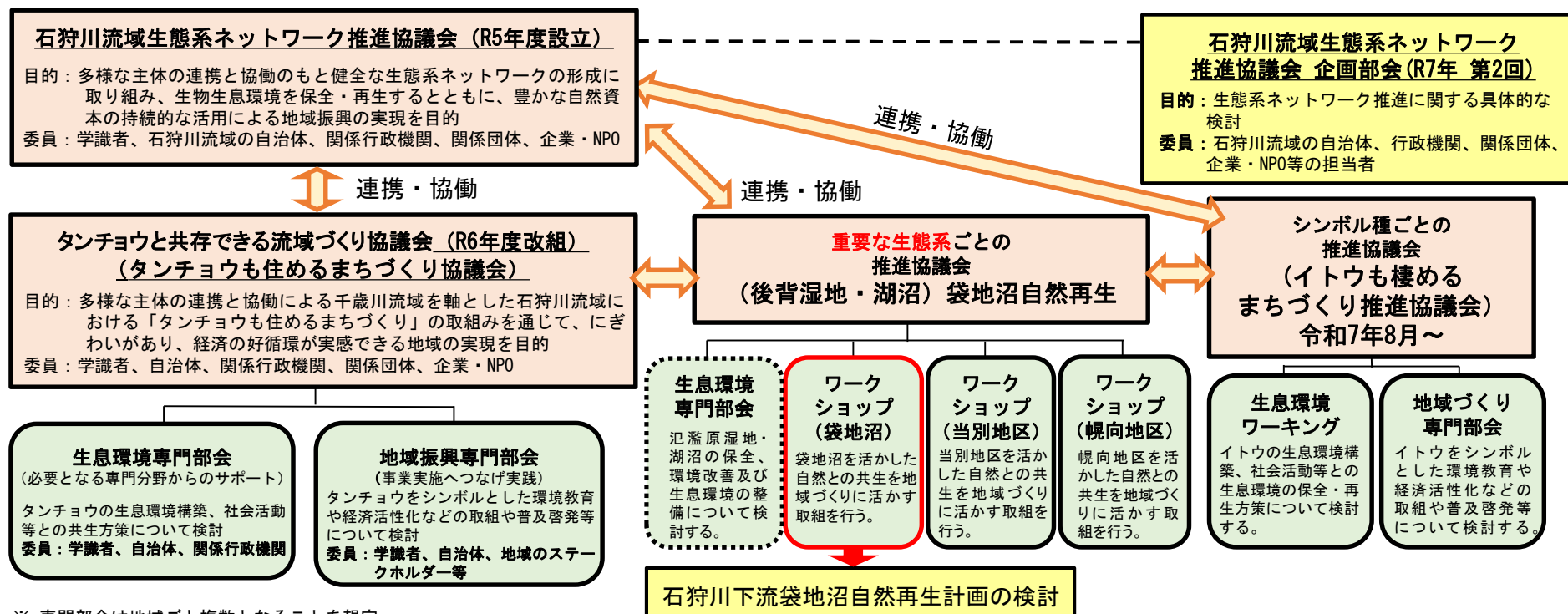
活動団体主催によるフォーラム・自然再生の取り組みを紹介するパネル展示

2.4 関連事業との整合

令和6年2月、生態系ネットワーク形成にかかわる総合的・全体的なテーマの取組検討や、“シンボル種もしくは重要な生態系ごとの推進協議会”の設立支援・取組支援、各協議会横断的な情報共有を目的とした、「石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会」が設立されました。

今後は全体構想を踏まえ、それぞれの推進協議会が掲げるシンボル種もしくは重要な生態系に沿った、より具体的な生態系ネットワーク形成の取組を推進します。協議事項、組織などは、推進協議会ごとに定めます。

袋地沼における自然再生は、「氾濫原湿地・湖沼をテーマとした推進協議会」の中の取り組みの一つに位置付けられる予定です。



2.5 事業の進捗の見込み

2.5.1 今後の事業スケジュール

石狩川下流自然再生(袋地沼地区)については、令和8年度に事業着手し、令和22年度に完了する予定です。直轄事業費(総事業費)は約9.1億円を予定しています。

令和8年度以降の事業

・湿地整備、浅場・深場整備 等

上記事業については、引き続き「石狩川下流袋地沼自然再生ワークショップ」を通じ、地域の方々、関係行政機関と連携・調整を図りながら計画的に実施します。

表 事業の進捗状況

工種	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22
設計・検討	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■					
浅場・深場環境整備		■	■	■	■	■	■	■	■	■					
湿性草原・樹林の形成		■	■	■	■	■	■	■	■	■					
水域の連続性確保		■	■	■	■	■	■	■	■	■					
管理用通路										■					
モニタリング	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

■ 工事等期間 ■ ■ ■ モニタリング期間

3. 千歳市かわまちづくりの概要

3.1 事業を巡る社会経済情勢の変化

3.1.1 河川環境を取り巻く状況

(1) 事業実施地域の概要

千歳市は、北海道の中南部、石狩平野の南端に位置します。千歳市の中心部は、北海道の空の玄関口である新千歳空港から車で15分程度とアクセスがよく、国内外からの観光客が道内観光に向かう出発の拠点となっています。市域の西部は山岳地帯で国立公園である支笏湖地域を形成し、市街地は支笏湖を源とする千歳川の沖積地に広がり、飛行場・空港、工業団地、自衛隊駐屯地・基地などが立地します。また、市域の東部は丘陵地帯で自然豊かな農業地帯となっています。

千歳市街地周辺では、JR千歳線を境として千歳川の下流側に道の駅サーモンパーク千歳、千歳川上流側にグリーンベルトが整備されており、年間を通じてイベントが開催されており多くの人が訪れます。



主要流入河川：石狩川
沿河市町村人口（千歳市）：約10万人
※出典：住民基本台帳（令和7年1月1日現在）

図 千歳市かわまちづくり対象地域及び周辺状況

(2) 河川と千歳市や民間事業者との関わり

グリーンベルト周辺では「RIVER CITY PROJECT CHITOSE」などの河川管理者・自治体・事業者が連携したイベントが開催されているほか、平常時も休憩や水遊びに利用されています。また、道の駅サーモンパーク千歳周辺にも多くの観光客が訪れ、賑わっています。

<グリーンベルト>

市民の「憩い・遊び・集い」としての活用を目的として、千歳川と交差するように約1kmに渡り遊具、施設や植樹等が整備されています。

<道の駅サーモンパーク千歳>

地元で採れた新鮮な農産物が買える直売所や、レストランが出店しています。屋内にはキッズスペース、屋外には遊具やベンチや緑地があります。春は子供たちを対象としたサケの放流体験などが開催されています。秋は、風物詩であるインディアン水車の捕獲風景と、サケ鍋など食を楽しむインディアン水車まつりが開催されます。



RIVER CITY PROJECT CHITOSE
(グリーンベルト)



道の駅サーモンパーク千歳周辺



サケの放流体験の様子
(道の駅サーモンパーク千歳周辺)



インディアン水車による
サケ捕獲の様子
(道の駅サーモンパーク千歳周辺)

3.1.2 河川等の利用状況

千歳市街地を流れる清流千歳川は、その自然を生かした河川整備が進められており、多くの市民が憩いや自然とのふれあい、イベントの場として河川空間を利活用しています。

- グリーンベルトの清水町親水公園は、子供たちの遊び場となっており、夏期には平常時・イベント開催時を問わず水遊びなどに利用されています。
- 「RIVER CITY PROJECT CHITOSE」等のイベント時には、カヌーによる千歳市街地の川下り等の水上アクティビティ体験が開催されます。
- 千歳川沿いに管理用道路が整備され、遊歩道として散歩、ジョギング、犬の散歩などに利用されています。



清水町親水公園の水辺利用状況



カヌーによる川下りの状況



遊歩道の利用状況

3.1.3 地域開発の状況

千歳市の令和7年1月1日現在の人口は約10万人であり、近年、大きな変化はありません。

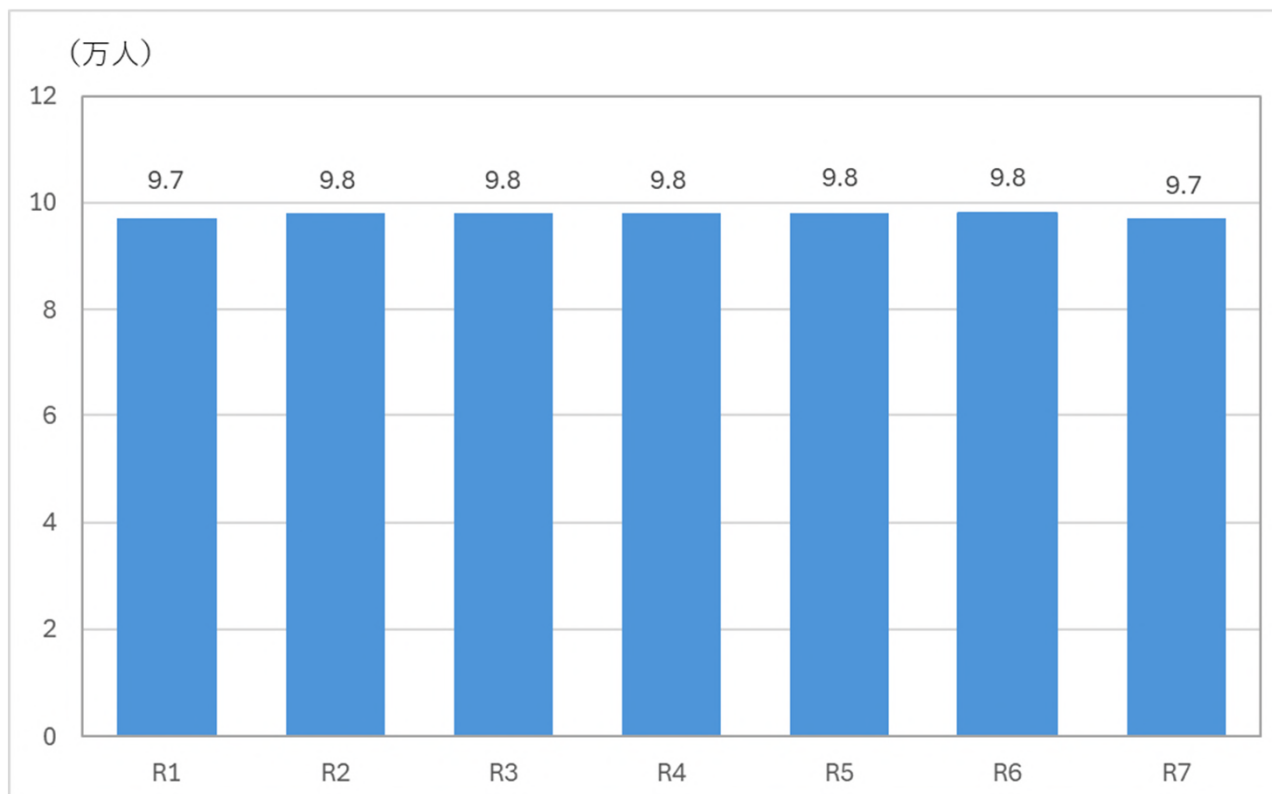


図 千歳市における人口の推移

資料:住民基本台帳(各年1月1日)

3. 1. 4 地域の協力体制

平成27年3月に千歳青年会議所の主催により「ミズベリング千歳会議」が開催され、千歳川の将来の利活用について協議されました。また、この会議の結果を基に、令和2年8月にかわまちづくり計画作成の参考とするための「かわまちづくりワークショップ」が開催されました。

更に、千歳市では令和3年にちとせエリアプラットフォームを設立し、地元商業者、青年会議所、学識経験者や学生などが参画してグリーンベルト周辺のまちづくりの将来像や取組の方向性が議論され、令和4年度には社会実験として千歳川を活用したイベントが開催されるなど、千歳川の更なる利活用に向けた検討が進められてます。

令和6年1月には千歳市、学識経験者、地元関係者等からなる「千歳市かわまちづくり検討会」が設置され、以降計5回の検討会と1回の現地視察を開催し、「千歳市かわまちづくり」計画の策定に向けた検討・協議を行いました。



ミズベリング千歳会議



ちとせエリアプラットフォーム



千歳市かわまちづくり検討会

3.1.5 関連事業との整合

<千歳川桜プロジェクト>

千歳川に市民が植樹した約300本の桜や柳は、台風や病気などにより減少していました。これを受け、千歳市では平成28年度から千歳川の両岸約1.6kmの区間に桜を植樹して連続した桜並木とする「千歳川桜プロジェクト」を実施し、千歳川沿いの良好な水辺空間の形成による賑わい・憩いの空間の創出や千歳市街地の活性化を図っています。



千歳川沿いの桜並木

<千歳川河川緑地整備事業>

千歳市第7期総合計画の実施計画では、河川環境の整備の指標として遊歩道の連続性の確保を挙げています。また、千歳川河川緑地整備事業として、千歳川沿いの休憩施設や照明灯の整備を進めています。これらに加え、かわまちづくり計画に基づく整備により遊歩道の分断解消など、さらなる利便性の向上を図ります。

<ちとせ未来ビジョン>

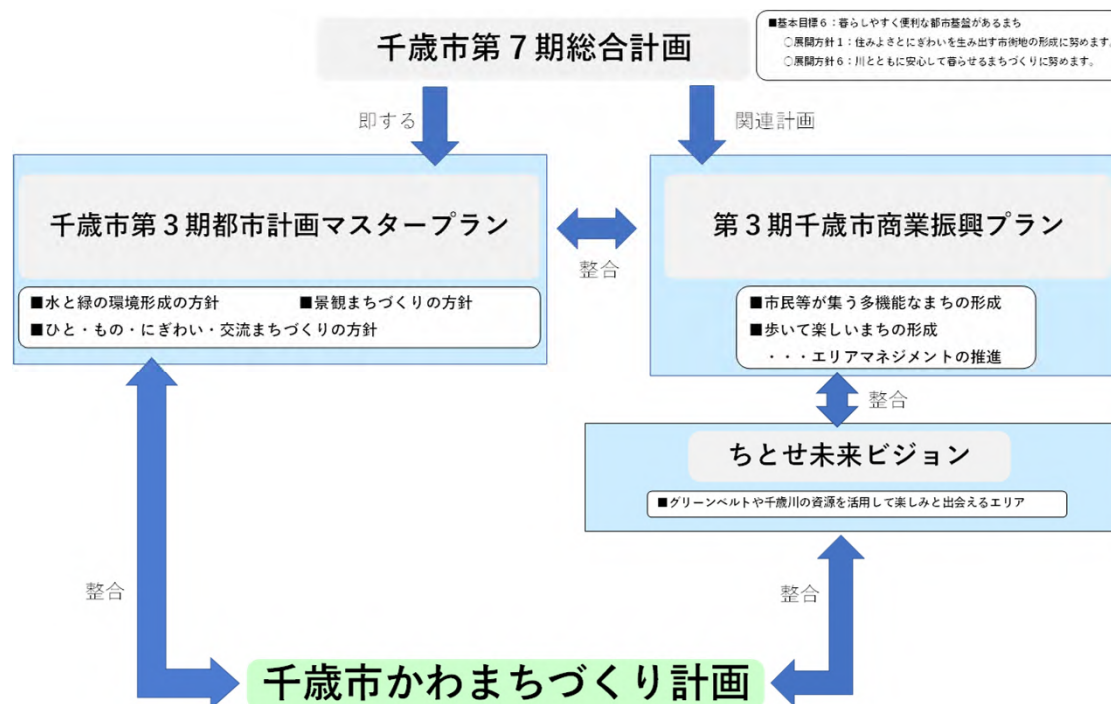
千歳市では、令和3年度に国土交通省の「ウォーカブル推進都市」に参画するとともに、まちの顔となるグリーンベルト周辺エリアの将来像やまちづくりの取組の方向性を議論・共有するため、官民の幅広い関係者が参加する「ちとせエリアプラットフォーム」を設立し、令和5年2月に「ちとせ未来ビジョン」を策定しました。「ちとせ未来ビジョン」には、実現に向けた取組として「空間資源の活用」、「ウォーカブルなまちなか」などが挙げられており、かわまちづくりとの連携により、千歳川の空間資源の活用およびウォーカブルなまちなかの形成を図ります。

3.2 事業概要及び進捗状況

(1) 事業の河川整備計画等の位置付け

千歳市は令和3年3月に、まちづくりの最上位の計画である「千歳市第7期 総合計画 基本構想」（計画期間：令和3年～令和12年）を策定しました。同計画では「暮らしやすく便利な都市基盤があるまち」を基本目標とし、その展開方針として「川とともに安心して暮らせるまちづくり」を位置づけています。また、千歳市第3期都市計画マスタープラン（令和4年3月）で示される全体構想のうち「水と緑の環境形成の方針」においては、千歳川およびグリーンベルトの有効活用について記載しています。

さらに、令和3年に設立した「ちとせエリアプラットフォーム」が令和5年2月に策定した「ちとせ未来ビジョン」では、実現に向けた取組として、「空間資源の活用」、「ウォーカブルなまちなか」など、千歳川の活用についても記載しています。



千歳市の各種計画等における千歳川の位置づけ

(2) 事業の経緯

令和6年1月に、千歳市、学識経験者、地元関係者等からなる「千歳市かわまちづくり検討会」を設置し、地域の意向を踏まえ、まちづくりと整合した利活用および観光振興策の検討・協議を行いました。かわまちづくり計画登録後は、「千歳市かわまちづくり推進協議会(仮称)」を開催し、水辺整備や河川空間の利活用推進に向けた具体的な方策を検討する予定です。

また本計画は、「かわまちづくり支援制度」を活用した「千歳市かわまちづくり」として国土交通省に申請し令和7年8月1日に登録されました。

(3) 事業の目的

千歳川沿いの状況や特性を踏まえ、千歳川に隣接した観光拠点である道の駅サーモンパーク千歳と、市民の憩いの場所であるグリーンベルトの拠点間の周遊性や利便性の向上を図ります。更に、地域住民の日常的な利用と新たな観光価値を高めるアクティビティが一体となった水辺空間を整備することにより、エリア全体の価値を高めるとともに、人々が集い、賑わいのある河川空間の創出を目指します。

(4) 整備の内容

<ソフト施策>

地域のニーズに沿ったソフト施策の実施による魅力向上と地域のブランドイメージ定着を図ることにより、エリア全体の価値を高めるとともに、人々が集い、賑わいのある河川空間の創出を目指します。

■周遊性の向上

・千歳川を中心とした散歩・ジョギング・サイクリングマップの作成や、JR千歳駅を中心としたレンタサイクル事業のブラッシュアップにより、グリーンベルト地区とサーモンパーク地区の拠点間の周遊性の向上を図ります。

- ①散歩・ジョギング・サイクリングマップの作成
- ②レンタサイクル事業のブラッシュアップ

■賑わいの創出

・千歳川の周辺においてカフェやキッチンカーの営業、桜並木のライトアップ、イベントの開催等を通じて賑わいの創出を図ります。
・千歳川は水がきれいで多様な動植物が生息する環境を有していることから、このことを知り、守る環境教育の場としての活用を検討します。

- ①河川周辺におけるカフェなどの営業
- ②イベント時の桜並木のライトアップ、キッチンカー営業
- ③ウォーキングイベントの実施
- ④ゴミ拾いイベントの連携
- ⑤環境教育の場としての活用



キッチンカー



清掃イベント

■新たな観光価値を高めるアクティビティの企画

- ・カヌー、サイクリングなどのアドベンチャーツーリズムのモデルコースの設定およびガイドツアーの企画により観光価値の創出を図ります。

- ①ガイドツアーの企画
- ②アドベンチャーツーリズムモデルコースの設定

■インバウンド利用も含めた観光客の利便性向上

- ・道の駅の観光案内機能の強化によりインバウンド利用も含めた観光客の利便性の向上を図ります。
- ・千歳川の利用者向けのルール、マナーの啓発のため河川利用のガイドラインを作成し、事故の防止や千歳川沿いの地域住民への配慮、動植物の生息、生育環境の保全に努めます。

- ①カヌー等ウォーターアクティビティ利用者向けの利用マップ(多言語対応)作成
- ②道の駅の観光案内機能の強化
- ③利用者向けのルール、マナーの啓発やガイドラインの作成

＜ハード施策＞

散策やジョギングなどで利用されている千歳川沿いの遊歩道の連続性を向上するために、管理用通路のアンダーパス化を行います。

水辺のアクティビティとしてカヌー利用を促進するために、カヌーが安全に発着できるように法面整備を行います。

市民の憩いの場であるグリーンベルトの清水町親水公園において水辺により近い場所でキッチンカーの営業やオープンカフェの利用ができるように親水護岸を整備します。

■グリーンベルト地区

- ・国：親水護岸、管理用通路

■サーモンパーク地区

- ・国：法面整備、管理用通路
- ・市：駐車スペース、案内看板

■グリーンベルト地区～ サーモンパーク地区

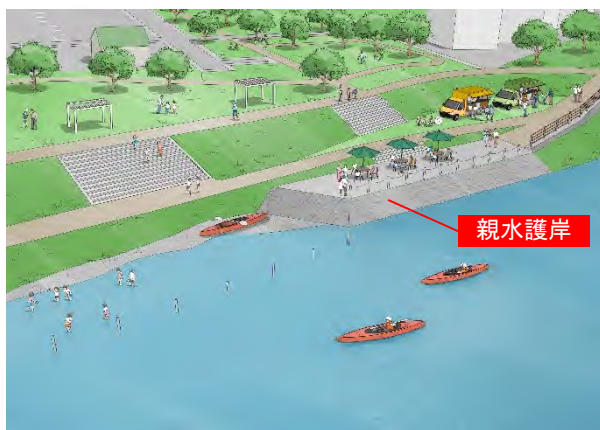
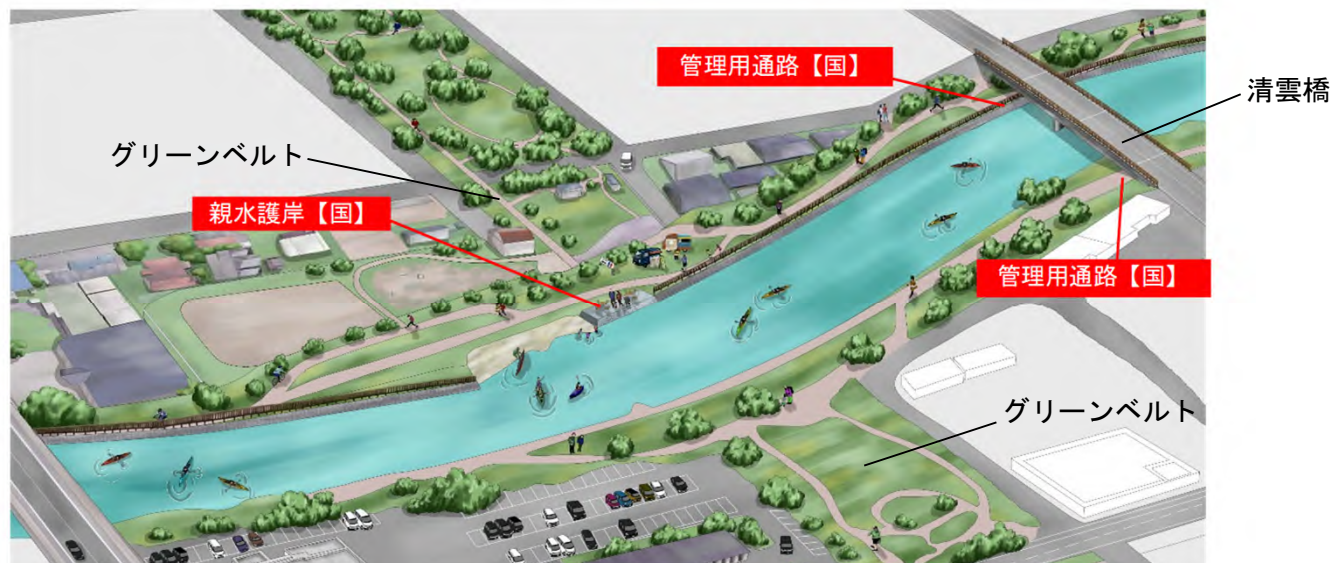
- ・国・市：河川管理用通路と公園のトイレや入り口等へのアクセス向上
- ・市：案内看板、休憩施設、照明灯、駐車スペース



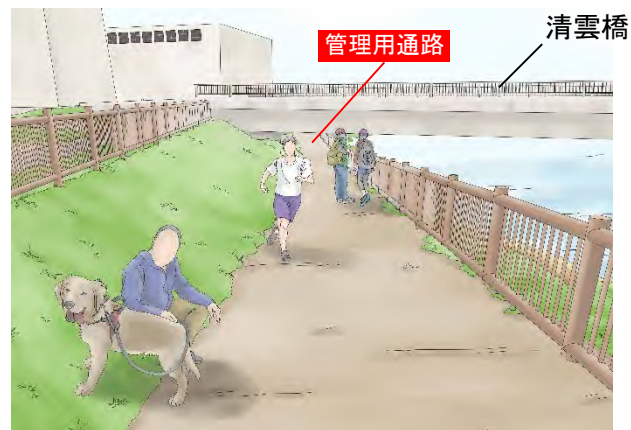
図 整備箇所

■グリーンベルト地区

- ・清水町親水公園に親水護岸を整備し、イベントや通常時の休憩に利用できるようにします。
- ・清雲橋(左右岸)の周辺にアンダーパスを整備し、遊歩道の分断解消を図ります。



親水護岸の整備イメージ



管理用通路の整備イメージ

■サーモンパーク地区

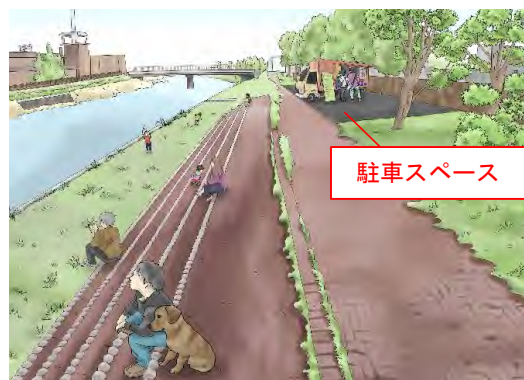
- ・サーモンパークに隣接する水辺に、カヌーポートとして利用できる法面を整備します。
- ・千歳川沿いに駐車スペースを整備し、カヌー利用・イベント利用の促進を図ります。
- ・日の出橋(右岸)の周辺にアンダーパスを整備し、遊歩道の分断解消を図ります。
- ・千歳川沿いの遊歩道から公園のトイレへの進入路等を整備し、アクセス性の向上を図ります。
- ・案内看板(多言語対応)の設置ならびに既設看板の活用およびリニューアルにより、拠点間の周遊性の向上を図ります。



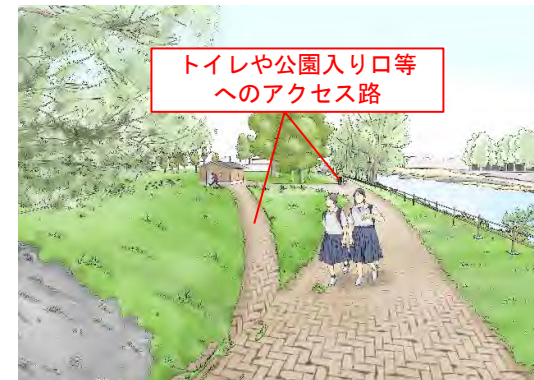
案内看板のイメージ
(グリーンベルト周辺)



法面整備のイメージ



駐車スペースの整備イメージ



トイレや公園入り口等へのアクセス向上のイメージ

(5) 期待される効果

「千歳市かわまちづくり」の整備により、地域住民の日常的な利用と新たな観光価値を高めるアクティビティが一体となった水辺空間を整備することで、千歳市街地の認知度・知名度のさらなる向上、グリーンベルトや道の駅サーモンパーク千歳を中心に「かわ」と「まち」が一体となった賑わいの創出を図ります。



RIVER CITY PROJECT



遊歩道



カヌー

3.3 事業の進捗の見込み

3.3.1 今後の事業スケジュール

千歳市かわまちづくりについては、令和8年度に事業着手し、令和17年度に完了する予定です。
直轄事業費は約2.6億円※を予定しています。

※その他費用として、自治体事業費約1.6億円を含め、総事業費は約4.3億円を予定しています。

令和8年度以降の事業

- ・国：「水辺整備(親水護岸、管理用通路、高水敷整正)」
- ・千歳市：「かわまちづくり推進協議会(仮称)、駐車スペース・看板整備等」

上記事業については引き続き、千歳市をはじめ地域の方々や関係機関と連携・調整を図りながら計画的に実施します。

表 事業の予定

実施者	工 種	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
河川管理者	計画・設計										
	親水護岸										
	管理用通路										
	高水敷整正										
	モニタリング										
千歳市	かわまちづくり 推進協議会(仮称)										
	駐車スペース、 看板整備等										

■ 工事等期間 ■ ■ ■ モニタリング期間